

アマゴの稚魚放流 を行いました



光の森学園の1年生から6年生の35人が、大井川の支流にアマゴの稚魚約300匹を放流しました。この放流会は、自然環境を大切にする気持ちを育んでもらおうと、新大井川漁業協同組合と新大井川漁協本川根支部が開催しました。稚魚は、町内で養殖業を営む梶山雅史さんが昨年11月に採卵・受精から孵化をさせ、これまで大切に育ててきたものです。

子どもたちは、容器に入った体長約10センチほどの稚魚のきれいな模様をじっくり観察した後、川へ慎重に放流し「大きく育ってねー」「ばいばーい」と声をかけながら、川上へ泳いでいく様子を見送りました。

漁協の担当者は、今後アマゴが生存できるきれいな川を維持するために、ゴミのポイ捨てをしないことや、川にゴミが捨てられていたら拾うことなどについて子どもたちに呼びかけました。



梶山 雅史さん

趣味でアマゴの養殖を始めてから、かれこれ40年が経ちました。今では自然学習体験としてアマゴの放流事業に参加しています。

この事業をきっかけに子どもたちが魚や自然環境に興味を持ち、生き物や環境を大切にする心を育てられることを願っています。

